

電子展示委員会活動報告

電子展示委員会

電子展示委員会（以下当委員会という）は、活動の基本方針を見直した上で、平成14年度末にテスト公開を開始し、平成15年度に長谷川貞信浮世絵資料の本公開を行った。

活動基本方針について

当委員会では、これまで活動の目的を図書館ウェブサイトでの公開および貴重資料のアーカイブの作成としてきたが、委員会の活動内容やデジタル画像作成の方針等について、必ずしも明確な方向性をうちだしてきたとは言えない状況にあった。特にデジタル画像の作成方法に関して、別途継続的に実施している貴重書のマイクロフィルム化事業との関係を整理する必要が生じていた。

そこで、当委員会では今年度、以下のとおり、貴重資料のデジタル画像作成の方法および課題を整理し、今年度以降の作成方法および当委員会の活動基本方針を策定した。

1 デジタル画像の作成方法について

- (1) カラーマイクロフィルム撮影を行う。
 - ・原則的にカラーマイクロフィルムに撮影し、貴重資料のバックアップとして位置づける。
 - ・カラーマイクロフィルムを選択する理由は、貴重資料のバックアップとしては、より原本に近い色情報を保存できるため、文字情報の識別についても、近年の技術進歩によりカラーマイクロフィルムとの間に実用上の差は小さくなっているためである。
 - ・撮影したカラーマイクロフィルムは必ず複製を作成し（デュープフィルム）、デジタル画像作成の作業等には複製を利用する。
 - ・将来的に、撮影したカラーマイクロフィルム自体を閲覧提供することになれば、マイクロリーダーを使って直接プリント出力することが困難であることに留意する必要がある。
- (2) インターネットでの公開用画像としてJpeg画像を作成する。

- ・インターネットでの公開には、もっとも普及したフォーマットであるJpeg画像を基本のフォーマットとする。
- (3) デジタル・アーカイブ・データとしてTiff画像を作成する。
 - ・Jpeg画像の作成の過程で、より高品質なデータであるTiff画像を作成する。これにより貴重資料の多重バックアップが可能となる。
 - ・Jpegよりも高精細な画像が得られるため研究目的利用の可能性を検討することが可能となる。
 - ・プリント出力が不可能なカラーマイクロフィルムの代替として、パソコンを使ってのプリント出力が可能となる。
 - ・普及したフォーマットであることから、他の画像フォーマットへの変換が将来に置いても可能となる。

2 課題等

- (1) 貴重書撮影との統合について
 - ・貴重書のマイクロ撮影は、閲覧参考課で貴重資料の利用による破損を回避する等の目的で実施してきたが、当委員会でも同じ目的の事業を行うことになるため、コスト面、業務の効率性の面から両者を統合することが望ましい。但し、閲覧参考課で撮影するものがモノクロフィルムであるのに対し、電子展示での公開はカラー画像を前提としていることから、カラー撮影への切り替えが不可能であればそれぞれ独自に撮影を行わざるを得ない。撮影したマイクロフィルムの所蔵資料としての位置付け、マイクロフィルムの管理方法の再検討、カラーマイクロフィルムへと切り替えた場合の利用環境の整備等を、継続して検討することとする。
- (2) Tiffデータの管理について
 - ・既に作成したTiffデータはCD-Rに保存しているが、このCD-Rについて 利用提供を行うかどうか 利用提供を行う場合図書館資料として登録処理を行うか プリント出力を行う場合に、

貴重資料を複写する場合の取扱いに準じるかを検討する必要がある。

- ・データの保管媒体とそのバックアップについて、CD-R、DVD-R、DVD-RAMなどのメディアを利用するか、定期的にバックアップを行うか等について基本方針の確認が必要である。

(3) 研究者向けデータの位置付けについて

現時点では、所蔵する貴重資料を紹介し図書館のPRを目的としているため、Jpeg画像の配信のみを行うが、情報通信インフラの向上が進んだ場合や、あるいは館内での利用に限定して、研究目的に耐えうる高品質の画像の提供を行なうかどうかの検討が必要である。公開するのであれば、館内利用に限るのか、館外へも配信するのか、利用者を限定するののかも検討する必要がある。

- (4) 上記1(2)で述べたTiffデータは、研究目的の利用に耐えうる品質のデータを作成することが可能であるが、その場合どの程度の品質が必要なのか検討が必要である。例えば、作成済みの長谷川貞信浮世絵資料のTiff画像データは、400dpiで作成しているが、技術的には数1000dpiでのスキニングが可能となっている。

3 当委員会の活動基本方針

貴重資料のマイクロ撮影事業を、貴重資料のバックアップ作業と再定義することができれば、成果物であるマイクロフィルムは貴重資料の破損・汚損等に備えること 貴重資料の代替物として利用することを目的に作成されることになる。これはすなわち、貴重資料のアーカイブそのものであるといつてよい。加えて、カラーマイクロへの切り替えが可能であれば、プリント出力のためにTiffなどの画像ファイルを同時に作成することが必須となる。この画像ファイルはマイクロフィルムと同様に、貴重資料のバックアップと位置づけられるため、マイクロフィルムが貴重書のアーカイブであるのと同様に、電子的なアーカイブとして位置づけられることが可能であろう。つまり、貴重書のマイクロ撮影事業は、貴重書のアーカイブ作成そのものであるということが出来る。

当委員会では、これまで電子展示活動を「収蔵資料の電子的な保存(デジタルアーカイブ)の一機能」として位置づけることの必要性を指摘してきた。しかしながら、貴重書のマイクロフィルム撮影との関係を上記のとおり整理してみると、貴重資料のアー

カイブ事業は、貴重書のマイクロフィルム撮影事業において実現されていると考えるのが適切で、当委員会が改めて貴重書のアーカイブ事業を実施する必要性は少ない。そこで、当委員会単独の活動内容に関して、(デジタル)アーカイブの作成を対象としないことを前提に見直しを行い、委員会の活動方針を以下の通り策定した。

(1) 活動方針

- ・所蔵する貴重資料を学内外に広く紹介し、大学及び図書館の広報 図書館活動への理解の促進 図書館利用の促進 学術情報の発信を主たる目的として実施する。
- ・上記の目的で、所蔵する貴重資料のカラー画像を、当面の間はJpegフォーマットで公開する。
- ・ウェブサイト委員会と連携をはかりながら実施する。
- ・貴重書のマイクロフィルム撮影事業に関しては、そのカラーフィルム化に関して検討を継続する。
- ・研究目的の利用に耐えうる高精細な画像の提供は当面の間行わない。

長谷川貞信浮世絵資料の本公開について

上記の方針を踏まえ、一部をテスト公開中である長谷川貞信浮世絵資料について、本公開を重点目標として検討を進め、ウェブサイトのデザイン、CGI等のウェブサイトの設計、公開用ファイル、拡大画像の作成等を業者と協力しながら実施し、3月に公開を果たした。

1 サイトデザインについて

サイトのデザインは、イメージを伝えた上で、業者委託により作成した。「重厚感、アカデミックなエッセンス、上品さ」「レトロすぎずモダンすぎない印象」「所蔵する貴重資料の画像を取りこむ」などを希望するデザインのイメージとして伝え、黒を基調としたデザインを依頼した。トップページのデザインは、黒を基調にエンジ色の線や、着物の生地のような画像を使用して、オリエンタルな印象を与えるものにしあがっている。ただ、サムネイルページと、画像詳細ページでは、画像を際立たせることと、プリント出力した場合の見栄えを考慮して、黒をアクセントに残しつつ、背景色は白地にしている。

2 サイト設計について

今回対象とした長谷川貞信は、上方で優れた作品



<http://www.lib.kansai-u.ac.jp/etenji/etenji-top.html>

を残した浮世絵師で、父子相伝で代々貞信をなのり、現在も五代目が大阪で活躍されている。今回公開した江戸時代から昭和に至る作品を鑑賞するポイントはいくつも挙げることができるが、特に江戸、明治、大正、昭和と、時代とともに移り変わっていったテーマや作風を、初代から三代目まで、作者を手がかりとして作品と対峙する点を強調したかった。そこで、サイトの設計としては、長谷川貞信の展示トップページの下に、初代、二代目、三代目の入り口をつくり、その下にさらに描かれた内容によって、サムネイルを表示することにした。浮世絵の詳細ページにたどり着くまでの階層が若干深くなってしまったのは、こうした考えによるものである。それぞれの入り口には、各サブカテゴリーの一覧を設定している。基本的な考えとしては、描かれたテーマ毎にサムネイルを表示させることを検討したが、初代に関してだけは、殆ど全てが役者絵であったため、作品の成立順にカテゴリーを設定した。

また、詳細画像の解説文を追加することはなかなかできなかったが、資料の整理作業の進捗により、OPAC (KOALA) で提供している目録データを画像に添付した。これにより、役者名や、外題、版元などが参

照できるようになった。また、初代の全ての画像と二代目、三代目の一部（全部で229点）については、拡大表示用の Jpeg ファイルを新たに作成したうえ、物理的に複数枚からなる作品は一つの作品として提供できるよう画像を結合した。

3 システム面

サイト設計そのものは、HTML ファイルをハイパーリンク機能を使って遷移する一般的なウェブサイトの構造によっているが、サムネイルと詳細ページの書誌事項の表示に関しては、データベースを構築せず、perlによりCGIを作成し、CSV ファイルを参照させて表示させている。これは、管理する画像ファイルの数量と、費用的な制限等からデータベースを作成する必要はないと判断したためである。CSV ファイルには、各画像ファイルのファイル名と、対応する書誌事項、サムネイルの表示の単位となるサブカテゴリー名、関連画像のファイル名等を入力している。書誌事項の内容は、OPAC (KOALA) で使用しているものを入力しているため、書誌事項にメンテナンス時には、両方をメンテナンスする必要がある。また、今後展示テーマを拡大していった場合には、それぞれについて同様の方法を採用した場合には、メンテナンスが煩雑になっていく可能性がある。

次年度に向けて

多くの協力を得て今年度ようやく本学の独自色を出した電子展示室の公開にこぎつけることが出来た。しかし、事業は今後も継続していくことに意義があり、特に貴重資料のマイクロフィルム作成事業との統合に関しては、今後も検討を継続していく。また、インターネット上での公開で、一般の利用者を満足させるには、コンテンツを充実させていくほかない。電子展示において公開する資料選定の方法などを整理して、新しい画像を追加し、電子展示室を充実していく体制を整備していきたい。